

企画展

水元小合溜水草世界

大滝末男と都立両国高校生物部員の見た昭和33年

蘇れ小合溜
よみがえ



平成23年
7月26日火 - 11月30日水

開館時間 9:00~16:30

休館日 毎週月曜日(但し、9/19日 10/10日は開館、翌火曜日休館)

協力 国立科学博物館筑波実験植物園、葛飾区郷土と天文の博物館、松戸市戸定歴史館、東京都立両国高等学校

公益財団法人 東京都公園協会
水元公園水生植物センター

大滝末男先生を知っていますか？

終戦間もない、昭和22年9月都立両国高校に新米生物学教師として赴任した大滝末男は、水元小合溜のこの「水草世界」に魅せられ、同校生物部を水元小合溜を調査フィールドとして、調査指導するとともに、自身水生植物の研究に没入していきました。ここに戦後の日本水生植物研究が始まったと言って過言ではありません。その成果は昭和55年に出版された「日本水生植物図鑑」(石戸忠氏と共著)に結実しています。

ここ、水元小合溜近辺は現在においては、絶滅危惧Ⅱ類であるオニバスの都内唯一の自生地、準絶滅危惧種であるアサザの数少ない都内自生地のひとつとして貴重な存在です。しかしながら、かつて水生植物の豊庫といわれた昔日の面影は殆ど失われ、オニバス、アサザに往時を偲ぶばかりです。

一昨年、同氏が生前撮影した6000枚に余る水生植物のスライドを中心とした学術資料が地元水元で発見されましたが、併せて、藁半紙ガリ版刷りの「葛飾小合溜(水元釣仙境)に於ける生物調査」という小冊子が見いだされました。昭和33年の同氏と両国高校生物部員の調査記録です。

本企画展はこの「葛飾小合溜(水元釣仙境)に於ける生物調査」の一端をご紹介するものです。「蘇れ小合溜」、この企画展が豊かな水生植物を生育基盤に、多様な生物が棲息していたかつての小合溜復元の機縁となれば幸いです。

記念講演会

「日本の水草—現状と保全の課題」

- 日時 平成23年9月23日(金祝) 13:30~15:00
 場所 水元公園水生植物センター(旧水産試験場管理研究棟) 第3講習室
 講師 角野康郎 神戸大学大学院教授、水草研究会会長
 定員 100名(先着順)
 参加方法 当日会場にて、先着順にて受付(開始30分前から受付開始)

水元公園へのご案内



■JR常磐線(千代田線直通)または京成線 金町駅下車

■南口バスターミナルから

京成バス 戸ヶ崎操車場・八潮駅南口 行き—水元公園下車 徒歩15分

東武バス 新三郷駅 三郷団地行き——桜土手下車—徒歩5分

※水生植物センターは[桜土手]が最寄りの停留所です。

※3月~11月の土・日・祝日は、金町駅から循環バスの運行あり

【問い合わせ先】

水元公園サービスセンター

電話 03-3607-8321

